

心の温かさを感じるとき

鳥取大学附属小学校 副校長 松本 洋介

新緑がいっそう鮮やかさを増す季節になりましたが、全国のニュースでは気温が30℃前後の真夏日の日も聞かれるようになりました。日を追うごとに、周りは温かさが増してきているようです。

さて、日々の生活の中で、皆さんにもきっと「心の温かさを感じるとき」があるのではないのでしょうか。

私がそう感じたときの出来事に、「犬の散歩をしていて初めて出会った人から挨拶された」「合流車線で気持ちよく車を入れてもらった」「車の前の横断歩道を渡った親子から丁寧なお辞儀をされた」・・・などがあります。どの場面も、日常生活の中の特別な場面というわけではなく、ごくごくありふれた場面の中での出来事です。これらは、学校外での出来事です。学校内でも「心の温かさを感じるとき」として、4月から次のようなことがありました。

- ・朝、寂しくて教室で悲しい顔をしている友達に「どうしたの？」と聞いてあげて、寂しくないように声をかけてあげ、寂しい顔が笑顔になったとき
- ・登校中にこけて足をすりむいた1年生を心配しながら、ティッシュを出してふいてあげていたとき
- ・強風対策のため伏せてあった外用の下足を上級生が進んで立ててくれていたとき
- ・私が教室で配り物をするときに時間がかかっているのを見て、進んで手伝ってくれたとき
- ・風で倒れたみんなの植木鉢を起こしたり、飛んでいった部品を探してくれていたとき
- ・墨で汚れた床を進んできれいにふいてくれたとき・・・



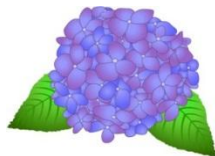
まだまだ紹介したいことはありますが、この2ヶ月の間にも、たくさん「心の温かさを感じるとき」がありました。

学校外でのことでも、学校内でのことでも、どんなときに心の温かさを感じたかと考えてみると、どの場面にも共通することは、自分のことだけではなくみんなのことを考えたり、感謝の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを察し、思い合ったりする言動に出合ったときだということです。

人が集団で気持ちよく生活していくためには、ルールやマナーを守って生活することはもちろん、自分のことだけではなく、相手や周りの人のことを考えて行動することもとても大切なことです。それは、「自分がされてうれしい」と感じることは進んで行い、「自分がされていていや」と感じることは誰に対してもしないということにつながるのだと思います。

「今日はどんなことで心が温かくなれるかな」と、毎朝、元気に登校してくる子どもたちの顔をみながら、楽しみにしています。

6月の主な行事予定



1日(水) 鳥取大学開学記念日	17日(金) おはようおはなしの会(上)
2日(木) 夏服衣替え	前期個別懇談③
プール開き	21日(火) 3年生校外学習(湖山池周辺)
7日(火) 小中合同防災訓練(火災)	給食試食会、1年保護者人権教育研修
9日(木) 4年生森の学校1日目	6年箏の学習
懇話会、執行部、常任委員会	22日(水) 3年生校外学習(湖山池周辺)
10日(金) 4年生森の学校2日目	6年箏の学習
集金引き落とし日	25日(土) 親睦球技大会
14日(火) おはようおはなしの会(下)	29日(水) 第2回親善大使保護者説明会
6年箏の学習	
15日(水) 前期個別懇談①	
16日(木) 前期個別懇談②	



初めての学習参観日

4月23日、今年度最初の学習参観日を行いました。

お家の方に見守られ、張り切っている児童や、新しい先生や学級の友達に緊張しながらも、真剣に学ぶ児童など、それぞれがんばっている姿を見ていただけたと思います。

今月31日は、2回目の学習参観日となっています。よろしくお願いします。



本校の研究について

本校には、鳥取大学の教育研究に協力する任務をもつ、大学附属という独自の立場で実践研究を進め、先導的な試行によって新たな教育実践の開発・普及、さらに人材育成に努め、地域の教育に貢献するという、性格と任務があります。

保護者の皆様には、総会において説明させていただき、そのためのご理解とご協力をお願いしました。教職員一同、こうした任務をしっかりと果たすことができるように、今年度は、研究部組織を新たにしてお各担当の企画運営に携わっていきます。

また、各教科・領域においては、本校研究主題「これからの教科・領域のあり方を問う」についての実践研究を自分の担当教科・領域の研究を共同研究者である大学の先生方と協同してすすめていきます。今回は、研究部組織についてご紹介します。

全職員が以下のいずれかのチームに所属します。さらにチーム長と研究部長で研究部会を行い、それぞれの連携を図っています。

A 学力向上・授業実践チーム

校内授業研究会の計画運営を中心に、本校の研究を学力向上につなげていきます。

B 広報チーム

研究発表大会や実戦記録集など、本校の研究についてのさまざまな広報活動を中心となつてすすめます。

C 連携チーム

鳥取大学の研究機関や他大学からの研究依頼、鳥取大学附属学校園及びコホート研究など、本校以外の研究機関、教育機関との連携を図ります。

*次回は、各教科・領域の研究テーマをご紹介します。

砂の学校

5月12日、さわやかな天候のもと、「砂の学校」を行いました。

きょうだい学級のお兄さんお姉さんが下級生と手をつないで歩いたり、6年生が中心となつて、色別対抗のゲームや昼食のお世話をしてくれたり、最上級生としての役割を果たしていました。初めて参加した1年生もとても楽しそうで、思い出に残る砂の学校となりました。



<なるほど>

多内 京子

私は今年度、1年担任になりました。入学してから2か月。「なるほど、そうきましたか。」と驚かされることがたくさんあります。

先日の算数の授業でのこと。「いくつといくつ」という単元で、『「7」はいくつといくつに分けられるか』という学習をしました。子どもたちには、「7個のいちごを2人でわけっこしたら、何個と何個に分けられるかな。」と問いました。そして、具体的な場面が想定できるよう、さらにその「2人」を「お兄ちゃんと妹」で考えたら…、と例えを出しました。すると、まず子どもたちから出てきたのは、「3個と3個で1個あまる。」「残った1個を半分にする。」「残った1個はお母さんにあげる。」といったものでした。「2人でわけっこ」という意味を生活経験から「半分こ」とちゃんと捉えているわけです。なるほど、そうきましたか。

そこで、「今日はいろんな分け方を考えてみよう。」というめあてを出して考えさせると、「お兄ちゃんは大きいから4個で妹は3個。」「妹に5個あげてお兄ちゃんは2個。」「お兄ちゃんはそんなにいちごが好きじゃないから妹に7個全部あげる。」といったものが返ってきました。なるほど、なるほど。『「7」は○と△の裏に実は様々なストーリーがあることを、私自身改めて考えた時間となりました。

これからも、子どもたちとともに楽しみながら授業をつくり上げていきたいです。